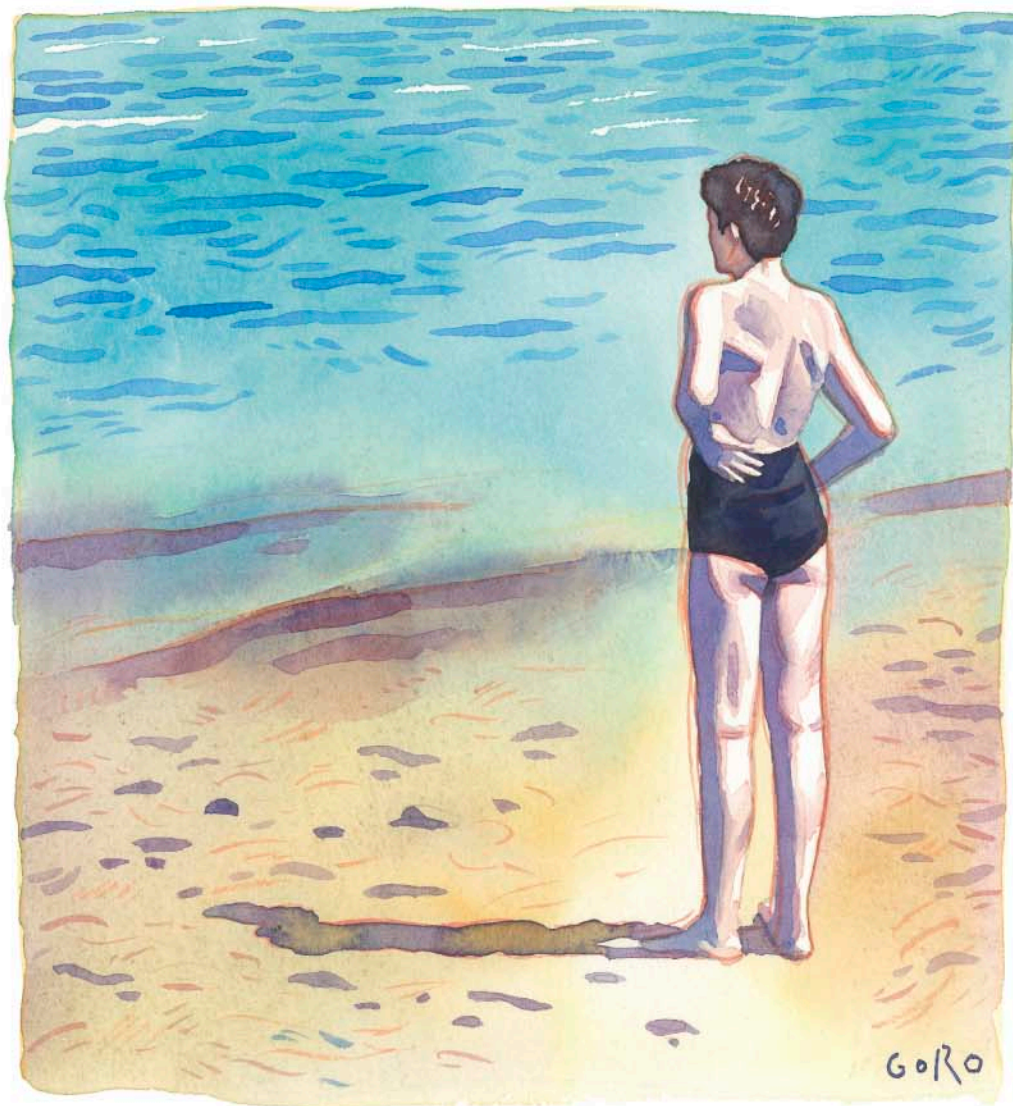


# RKU Today

流通経済大学広報誌 vol.4

[特集] 社会学部が変わります



流通経済大学

SUMMER 2008

# CONTENTS

RKU Today vol.4  
Summer 2008

表紙イラスト：佐々木悟郎

[特集]  
**04 社会学部が変わります**

[インタビュー]  
**08 児玉新理事長に聞く**  
聞き手：馬場啓一（法学部教授）

[国際交流] —ベイラ・インテリオール大学(ポルトガル)との学術交流協定更新—  
**10 お互いの歴史と文化を理解することが  
真の国際交流につながる**  
報告：日埜博司（流通情報学部教授）

連載 [ロンドン留学余話] パブの話 其の一  
**12 パブとはビールを飲むところ**  
文：波田永実（法学部教授）

Close Up!  
**14 流通経済大学 [教職員紹介]**

コラム [馬場啓一のRKUウォッチング]  
**16 源氏物語を楽しむ会**

[OB/OG訪問] 立川が聞く  
**18 山下博之さん**  
(1992年卒業・キノエネ醤油株式会社代表取締役社長)  
取材：立川和美（社会学部准教授）

[留学生紹介]  
**20 駱 忠良 君**（中国・上海出身）  
「ただ、まっすぐに将来を見据えて…」  
取材：沖野雅広（企画広報室）

**21 校友会からのお知らせ**

**22 NEWS & TOPICS**



## 巻頭言

在学中の4年間、くる日もくる日も、たった一人で、  
もくもくと走り、たんたんとペダルをこぎ、ひたすら泳いだ学生がいた。

卒業後、才能が開花し、2004年アテネの地で日本人最高の成績を残した。  
そして2008年夏、母校流経大の一員となったOBが五輪でメダルを狙う。

1500メートルを泳ぎ、40キロを自転車で走り、さらに10キロのランニング、  
想像を絶する過酷な競技、トライアスロンに挑む田山寛豪君の勇姿が北京で見られる。

学生時代から「夢実現」を心に秘め、たゆまぬ努力を重ね重ねて臨むオリンピック。  
田山君の夢の実現は、われわれの夢の実現でもある。

がんばれ、田山！

左：田山寛豪選手（本学職員） 右：野尻俊明学長

## 社会学部で学べること、将来の進路



[特集]

# 社会学部が変わります

社会学科は……

人間と人間、人間と社会を見つめます。

- ① 心理学分野も学べるカリキュラム
- ② 社会福祉科目が充実
- ③ 保育士免許の取得が可能に

国際観光学科は……

未来の夢と生きる喜びを見つめます。

- ① 「国際」の充実——観光研修と学生交流
- ② インターンシップの強化
- ③ 語学ゼミ(2年)の新設  
——ネイティブによる英語・中国語のゼミ

## 流通経済大学社会福祉士会 全国でも例のない大学中心の組織

社会福祉士とは、厚生労働省指定の当該科目を取得した大学卒の者に受験資格が与えられ、年1回の国家試験合格者に与えられる国家資格です。合格率30%未満という難関ですが、本学では茨城県内で最も早く、すでに15年前から養成を始めており、110人以上の合格者を輩出しています。

この国家資格取得者が中心になって、2003年に「流通経済大学社会福祉士会」が設立されました。会員のスキルアップのための研修会や機関紙の発行、国家試験講座の講師派遣、現場実習への協力など、本学の福祉教育への協力も行っています。大学におけるこうした組織は全国でも例がなく、今年度からは大学校友会の職域支部として活動も行っていきます。

福祉現場で働く社会学科卒業生は、700名以上に達しており、そうした人を対象とした年に一度の「社会福祉セミナー」も、すでに10回を数えています。今年度は「社会福祉パワーアップセミナー 2008」を以下の予定で開催します。興味のある方は、ぜひ参加してください。

**会場**  
流通経済大学  
龍ヶ崎キャンパス 5号館

**日時**  
2008年8月30日(土)  
13時から17時まで

**プログラム**  
〔特別講演〕  
「北京五輪の感動を語る！」  
田山寛豪氏(社会学科卒)  
〔講演〕  
「生活保護とワーキングプア」  
大山典宏氏 ほか

# 社会学科

## キーワードは「ヒューマンケア」

### 開設二〇周年を迎えて

一九八八年にスタートした社会学部社会学科は、今年三月で満二〇年を迎えました。開設当時、国内はバブル景気の最中で、企業業績は好調でしたが、高度産業社会の実現は多くの問題も生み出していました。産業化と都市化の裏では、地域社会の解体や家庭の崩壊が起こり、高齢

者問題や青少年の非行、文化のゆがみも深刻化していました。

もつ社会学科では、これを、総合的な「人間と人間」「人間と社会」との関係のなかで捉え直していきたくと考えています。

向き合うばかりでなく、地域社会との連携など、幅広い知識や技能、さらにはリーダーシップや実践力が求められます。

少子化やライフスタイルの多様化によって、保育士への期待は高まる一方です。本学の保育士養成課程は、幅広く人間と社会とを学ぶことを特徴とする社会学科に設置され、そうした要求に十分応える人材を育成していきます。

大量生産、大量消費を経て、二一世紀に入り、私たちは地球環境や限られた資源を意識する時代を迎えました。一方で、少子高齢化の問題、IT技術に関する問題など、相変わらず複雑な社会問題が発生し続けています。こうした時代に、人々は、それぞれの生き方を尊重しながら、共生する道を歩み始めました。

同時に、保育に係る相談に応じ、保護者に対して適切な助言と指導を行う仕事です。子供たちと

保育士は、子供を保育すると同時に、保育に係る相談に応じ、保護者に対して適切な助言と指導を行う仕事です。子供たちと



少子高齢社会、高度情報社会の中で、社会学科は、人にたずさわり、人と支えあつていく「ヒューマンケア」をキーワードとする方向へと進み始めます。ヒューマンケアは、もともと介護・医学・福祉など専門領域において用いられる用語ですが、人間に関わる問題に常に関心を



【特集】社会学部が変わります

# 国際観光学科

## 新たな三つの柱

### 学科開設一五周年

一九九三年四月に国際観光学科はスタートしました。社会学を基礎として観光学科を設立したのは、「社会」は人と人との関わりであり、観光でもその基本は同じだからです。社会学・観光学・観光産業関連科目を中心に、旅行会社やホテル、航空会社などの就職に有利な資格・語学科目も充実しています。また、卒論発表会開催や卒論要旨集作成といった研究活動のほ

か、ベイラソフトボール大会なども学科運営で行われています。

福や楽しさを提供する役割を持つています。観光学、社会学に加え、観光産業人としての知識や技術、語学などもしっかりと学びます。

### 社会の変化の中で

本学科スタート後、観光をめぐる状況は大きく変化しました。なかでも、政府が「観光立国」政策を掲げ、「ビジット・ジャパン・キャンペーン」を展開しているほか、観光庁設立準備も進んでいます。各方面のグローバル化の進展とあいまって、観光事業、観光研究、観光教育には大きな期待が高まっており、国際観光学科ではこれに応えられる幅広い領域を学ぶことができます。

観光学、社会学に加え、観光産業人としての知識や技術、語学などもしっかりと学びます。

### 観光学科…教育の三本柱

#### 幸福と楽しさを提供する

観光やレジャーは人々の安らぎや夢、人との関係を創出する活動で、観光に関わる仕事は幸

の企業との連携によって、学生の将来に有意義なインターンシップを行っています。また実業界での経験豊富なスタッフが、熱心に指導に当たっています。

### 3 語学ゼミ

観光旅行をするにしても、観光関連産業に進むにしても、語学は必須です。英語や中国語のネイティブの教員が担当する二年ゼミでは、本当に使える語学力を身につけます。





けてまいりました。

今後さらにそれぞれの学部が学問研究の実を上げつつ、生きて動いている社会の現実と常に関わりを持つことを心がけるべきだと思います。実学の精神とは、それを指すのですから。

——国際化の進展のなかで留学生受け入れとともに、本学学生を海外に留学させ、国際交流を深めることも、これから重要でしょうね。

その通りです。これらどしどし本学の学生が海外に留学し、国際交流に積極的にチャレンジしていける

ようサポートしていきたいと考えています。留学中の勉強の成果を評価し、国内での学習と連結できるように、さらに制度も整えていきたいと思っています。

——それに関わることで言えば、理事長のご趣味は語学だと、うかがいましたが、大学で学んだのはドイツ語でしたが、それは昔の話で、五十代の後半から中国語を七、八年間、通勤電車の中で学び、先般中国の北京物資学院で行われた国際物流セミナーでは中国語で研究発表も行いました。その後



【インタビュー】

## 児玉新理事長に聞く

昨年7月、専務理事として本学に赴任されて以来1年、平成20年6月1日付で新理事長に就任された児玉駿氏に、その抱負と、流通経済大学の新たな未来について、語っていただいた。

聞き手：馬場啓一（法学部教授）

一年間、流通経済大学の現状をつぶさに見せていただき、そこにいろいろな課題とともに新たな可能性と、希望を見出しています



——日本通運の経営者から大学の理事長職に就かれるというのは、どういってお気持ちでしょう。

全員ゼミ制を中心としたキメ細かい少人数教育と実学の尊重という建学の初志は今日まで伝わり、守られていると感じています。そのDNAを今後さらに強化していくことが最も重要な課題だと思います。大学には、実業の世界からは新鮮に見えることも、いくつもあり、そういうフレキシブルな気持ち忘れず、重責を果たしたいと思っています。

——人口の構成からしても、大学への入学人員の減少は避けられませんが、日本の大学のほぼ四割が定員割れを起こしているという事実は、皆さんもよくご承知かと思えます。幸い

にして本学は今日まで定員を確保しており、これは先生方をはじめ関係各位の努力の賜であると大いに敬意を表し、感謝しております。

——大学の資質と、その努力が、試されていると思えますが。

その通りです。そこで、血の通ったキメ細かい教育と実学の尊重という建学の精神が、大きな意味を持つことになりました。

これらを通じて、社会に有為な人材を送り出すことで、流通経済大学が人々に益々認知されること、これを強く念じているのです。



児玉 駿（こだますぐる）

1944年3月、愛媛県生まれ。東京大学法学部卒業。日本通運（株）取締役（常務執行役員）、（株）日通総合研究所代表取締役社長を経て、2007年7月、学校法人日通学園（流通経済大学）専務理事に就任。2008年6月より同・理事長となる。

あれは疲れた。健康ですね。

ですから尊敬する人物は伊能忠敬。壮年までの人生は仕事に徹底し、その後、当時としては老人といつてよい五十歳を過ぎて後、二十年以上にわたり日本中を自分の足で踏破し、欧米人も驚く精密な日本の沿海地図を作成した凄人です。

外国人に対する日本語教授法の勉強をし、現在はハングルを勉強中です。こちらはまだまだこれから段階ですが、今後出来れば東南アジアの言語を、あとひとつくらいはマスターしたいんです。欲張りでしょうか。

——素晴らしいご趣味ですね。理事長という要職をこなすスタミナの源はなんでしょう。

歩くこと、それがもう一つの趣味なんです。いつも万歩計を、こうして腰に装着しております。本学に来た当初、佐貫の駅から大学まで何回かテクテク歩いたこともありました。一時間二十分ほど掛かりましたね。

最後の一言は当然こうなる。「元気が一番です！」

山脈」が間近に迫る。谷を挟んで広がる急傾斜に藝術文学・工学・理学・社会人間・健康科学の各学部研究棟や寮が点在する。傾斜地を下りきったところに創設まもない医学部があり、大航海時代初期の東方旅行家ペロ・ダ・コヴィリヤンの名を冠した総合病院が偉容を誇る。

コヴィリヤンは一八世紀に毛織物業で栄えた。今も周辺は優良な牧羊地だ。古い染色工場を改築した毛織物の博物館 (Museu de Lanifícios) が学内に設置されている。古びた雅趣の漂う街並みに大学がよく溶けこんでいる。学長の執務棟をレイトリリアと呼ぶが、

これは一八世紀フランスココの元修道院。暮夜、噴水のあるパティオで瞑想に耽るのも一興か。

\* 学長もセンター長もポルトガルへは初めての旅だ。ふたりには密かに(?)購入をもくろむお目当てのしるものがあつた。学長にあつては、生年と同じ一九五〇年収穫の葡萄を樽で熟成させたヴィーニョ・ド・ポルト(ポルトの古酒。安価なものではない)。左党なのか甘党なのか判然とせぬセンター長にあつては、いわゆる南蛮菓子(カステラ・金平糖・有平糖・ポーロ等々)の粗相に当たるもろもろの銘菓。

ポルトガルへ実務一辺倒の旅をするなんてつまらぬし、先方だって自国の文化にまるで興味を示さぬ連中の相手をするなど気分悪からう。小国の民であるがゆえにポルトガル人はプライドが高いのだ。ふたりが前記のような「旅のテーマ」を持つていたのは、だから幸いであつた。

学長らにポルトガル食文化の一端を瞥見してもらおう。これも私の楽しみであり念願であつた。UBIの質素だが上品なゲストハウスでよばれた昼めし。ポルトガルにはバカリヤウ(タラ)料理のレシピが三六五通りあるとか。つまり一年間異なる鰻料理が食え

るわけだ。千切りにしたタラをジャガイモ・香草・卵と絡めオリブ油で炒めたあのうまい料理は何と呼ぶのか、食べるのに忙しくて、つい訊きをびれた。

お別れの前夜、サントス・シルヴァ学長がゆきつきのレストランへ誘い出してくれた。誰かの注文した鯖を見て驚く。郵便切手のモチーフにもなったアソールス諸島の郷土料理がでんと現われたからだ。太い脚の肉が異常に柔らかい。これは特定の野菜(確か玉葱だったと思う)と一緒に、新鮮なうちに急速冷凍しておいたタコをじっくりと煮込むからだとか。

\* 二〇〇八年五月初旬。ポルトガルは爽やかな初夏の陽気であつた。ポルトガル東北の内陸部、スペインとの国境も近いコヴィリヤンという山あいの街にペイラ・インテリオール大学(UBI)がある。種子島にポルトガル人が漂着してから四五〇年目に当たる一九九三年、本学はUBIとの間に学術交流協定を締結した。このたび協定の更新を行なう運びとなり、式典へ赴く野尻俊明学長と松田英国国際交流センター長のお手伝いをしてきた。

これまで本学からUBIへは佐々木雅紀と渡辺一史というふたりの社会学部卒業生が一、二カ年の留学を果たしている。人数的には寂しいが、兩人ともそのキャリアをみごとに活かして活躍している。

数年前リスボアの日本大使館に出向くと、たまたま私を見つけた渡辺に声をかけられた。聞けば、東京外国語大学の大学院博士課程を休学し大使館で文化担当

今度の旅には、思わぬ収穫があつてきた。それは、UBIの主催する「外国人のためのポルトガル語夏季講座」へ流大生も参加してよろしいと告げられたこと。開講期間は七月二十八日から八月二十九日まで。コースは二種あり、ひとつは初心者向け、いまひとつは多少ポ語を習った者向け。先方の好意ある計らいにより流大生は授業料を免除してもらへる。寮費はたったの一五〇ユーロ(食費は別途自己負担)。ハンディキャップのある私の教え子がこれへの参加を熱望している。建築学の分野でUBIとは特別なゆかりのあるポーランドを含め、ヨーロッパ各国から生徒がやってくる。彼らとの交歓も貴重な体験となるであろう。スペインを含む周辺地域へテーマを設けて行なわれるエクスカージョン(遠足)も楽しみだ。

事情さえ許せば私が現地へ赴き学生を支援する。講座に関して度を越えたお節



UBIで最も魅力的な一角。石造りの建物(内部はゲストハウス)と石畳の道



UBI横内にある「毛織物の博物館」。18世紀の毛織物・染色工場を改築・利用している



ドウロ河沿いで収穫したブドウを男たちが蒸気で踏みつぶす。佳良なポルト酒造りには欠かせぬ工程



郵便切手に見えるアソールス諸島のタコ料理。これと同じものに内陸のコヴィリヤンで出逢うとは……



調印式にさきだちペイラ・インテリオール大学(UBI)学長室にて。右がUBI サントス・シルヴァ学長(撮影:日笠博司)

【国際交流】

お互いの歴史と文化を理解することが真の国際交流につながる

流通経済大学がペイラ・インテリオール大学との間に締結している学術交流協定を更新するため、さる5月、野尻学長の一行がポルトガルのコヴィリヤンを訪ねました。調印式だけにとどまらず、ポルトガルの歴史と文化を垣間見ることのできた今回の訪問をレポートします。

報告: 日笠博司(流通情報学部教授)



UBI紋章

五月五日(月曜日)。調印式に相前後してUBIの学部・施設をざっと案内してもらおう。

暖かいポルトガルでは唯一スキーのできるセーラ・ダ・エストレーラ(「星の



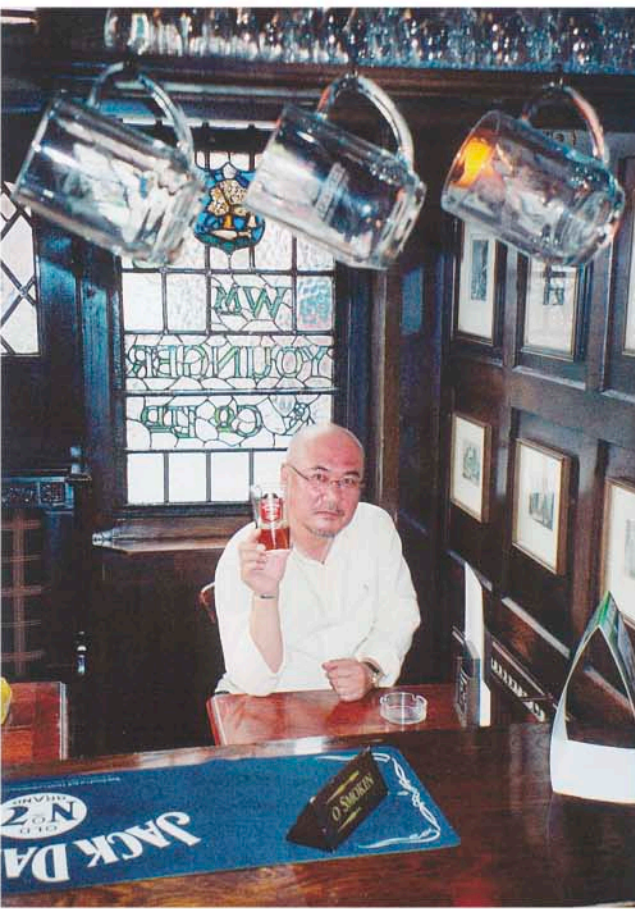
UBI眺望。都市も大学も傾斜地に造成するのをポルトガル人は好む。リスボアしかり、コインブラしかり、それから長崎も……

の専門調査員をやっているのだと。それじゃ私の(遙かな歳月を隔てた)後任ではないか。都内の印刷会社に勤める佐々木は礼儀に篤く愉快な人柄。時勢を反映してポルトガル語関連の仕事も少なくないそう。ポルトガルに関心を懐く学生が現われると必ず彼に引き合わせ、UBIでの留学体験を語ってもらうことにしている。

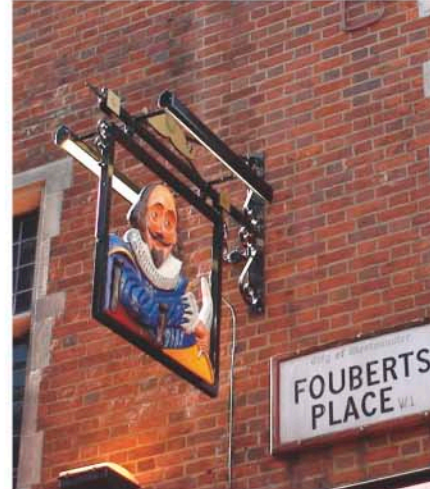
# パブとは ビールを 飲むところ

波田永実 (法学部教授)

2007年4月より1年間、在外研究の機会を与えられ、ロンドン大学の歴史研究所で1年間を過ごした。その間、研究以外のことで楽しかったことは美術館巡りとロンドンの街歩きだ。ロンドンという都市をなるべく自分の脚で歩いて、さまざまなものを観る、ということだ。土日は基本的に休日にしたので、よく市内を歩いた。本稿ではその中でもイギリスの居酒屋であるパブについて体験したことや、思っていることを述べてみたい。なぜならパブを知ることにはイギリスをよりよく知ることにつながるからだ (若干、牽強附会が無理があるかな? と自分でも思う)。



行きつけの「コーチ・アンド・ホースイズ」(ニュー・ボンド・ストリートとブルトン・ストリートの交差点の近くエルメスの隣)でいつもの席でいつものビール一杯



カーナビー・ストリート近くにあるパブ、シェークスピアの看板。窓からシェークスピアの人形が顔を出している

はないのか、といえればそれはある。しかし、外国のビールがライセンス生産されたものがほとんどだ。イギリス産のラガー風ビールはプロンド・ビアと呼ばれる。色はたしかに透明な黄金色だからプロンドなのだが、やはり炭酸ガスの量は少ない。ピターを好むイギリス人はラガー・ビールを「ガジード」(ガスっぱい)といて嫌う。もちろんラガー・ビールを好んで飲む人も若者を中心に少なくないが、多数派はまだまだピターのビールであるピターを飲みながら、友達とおしゃべりを楽しみ、あるいは孤独に本や

新聞を読んだり、何もせずただぼんやり時間を過ごすところがパブである。日本の居酒屋は飲食する所だが、パブでつまみを食べている人は非常に少ない。しかも日本のようにメニューが豊富ではないのだ。フライドポテト(これをチップスという)やポークパイやサンドウィッチなど頼めば出てくるパブは多いが、ほとんどの人がつまみなしで、ビールだけを何杯も飲んで帰るのだ。時々いるのはピーナッツやポテト・クリスピー(日本でいうポテト・チップス)を食べている人くらいだ。もちろん、食事を出すパブは少なくない。伝統的なフィッシュ・アンド・チップスやローストビー

フ、ソーセージにマッシュポテトを添えたものや各種サンドウィッチなどだ。しかし、それは昼や夜の食事であって、それらをつまみながらビールを飲む、ということはずな。しかし、パブはあく食事のできる場所でもあることは事実だ。第三に、立ったままで飲むのが当たり前というか、好きというか、テーブルに座っている人が少ないことである。パブによってはテーブルと椅子が沢山置かれていて、大抵のバブは中の広さに比してテーブルと椅子の数が少ない。その方が人が沢山入るからだろう。私は街歩きの途中でパブに入る事が多かったのですが、座ってゆっくりしたいのだが、その視線でパブの中を見渡すと、立って飲んでいる人がすごく多いことに気がついた。しかもそれは混んでいるのか空いているのかに関係なくそうなのだ。私の体験によると、若者は概して座りたがり、中年以上は立ったまま話をしながら飲むのが好きである。

## ロンドンのパブあれこれ(1)

### イギリスでも最も古いパブの一つ Ye Olde Cheshire Cheese

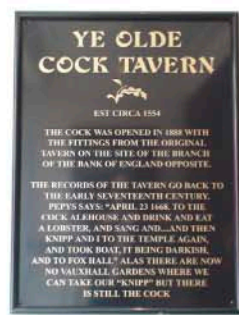
フリート街といえば、昔前はロンドンの言論界の中心で多くの新聞社や通信社が軒を連ねていた場所として有名である。そのフリート街の真ん中あたり、セント・ポール寺院に向かって左側に一本横に入る細い路地がある。入り口にYe Olde Cheshire Cheeseという看板が掛かっているのに注意すればすぐわかる。その路地にあるのが件のパブだ。パブの綴りは誤記ではない。YeはTheのOldieはOldの古い形だ。このパブはどの日本語のロンドン・ガイド・ブックにも出てくるほど有名である。何故かといえば、その看板には「1667年再建」と誇らしげに書いてあるからだ。1666年に有名なロンドン大火があり、市内全域が焼失した。この時、セント・ポール寺院も焼けたが、このパブも焼けた。その翌年に現在位置に再建されたままの姿で残っているのである。パブそのものはそれより以前に開業していたのだ。再建されたのが江戸時代の初期のことだ。居酒屋が350年近い歴史を刻んでいるのである。それにさらに箔を

付けているのが、イギリス最初の英語辞典を作ったサミュエル・ジョンソン博士が近くに住んでいて、このパブの常連だったということだ。なにせ古い建物なので、天井が低く、薄暗い。その上くねくねと入り組んでいる。入ると右側にカウンターがあり、このパブでは樽生はサミュエル・スミスというメーカーの作ったピター・ビールしか出さない。つまり、直営店なのだ。しかし、このピターが飲みやすく、しかも安いのだ。1パイントが2ポンドでおつりが来る。普通は3ポンド前後。寒くなるとコークスを燃やす暖炉に火が入る。床にはオガ屑が撒かれている。これは昔からの伝統で、床のよごれを少なくするための。汚れたらそのオガ屑を集めて棄てて新しいのを撒けばよい。パブを出て道なりに奥に入るとすぐに小さな広場に出る。そこに黒い小さな猫の銅像が建っている。ホッジという名前のジョンソン博士の飼った猫だ。その向かいがジョンソン博士の住んでいた家だ。ちなみにフリート街には有名なパブがまだ

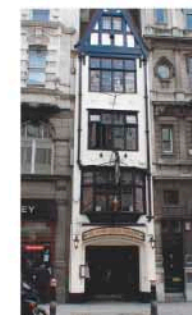


沢山ある。王立裁判所の前にはザ・ジョージのチューダー様式の建物が目に入るし、そのまま歩けば同じくチューダー様式のYe Olde Cook Tavernだ。ここは1549年創業で、チャールズ・ディッケンズやネル・グウィン(17世紀後半の女優で、チャールズ2世の寵姫)そしてジョンソン博士も常連だったと店の入り口のタブレットに書いてある。さらに進めばThe Punch Tavernのひょうきんな看板が目に入る。

イギリスには約七万軒のパブがある、といわれている。ロンドンだけでも相当な数だ。酒とそれをとりまく文化は各国さまざまで、それぞれ個性があつて面白い。パブとはパブリック・ハウスの略語だ。要するに飲み屋なのだが、かつては公共的な意味合いがパブにはあつたのだ。しかしただの飲み屋になつてもパブがイギリス名物であることは間違いない。イギリスのパブには日本の居酒屋と異なつての特徴がいくつかある。一番の特徴はパブとはビールを飲むところ、ということである。最近ではパブでワインを飲む人も増えてきたが、大多数の人はパブではビールを飲む。イギリス特産の酒にスコッチ・ウイスキーとジンがあるが、パブでスコッチやジンを飲んでいる人は極少数派だ。イギリスのビールは一般にピター、またはエールといい、いわゆるラガー・ビールに慣れている日本人にはちよつと変わった飲み物だ。まず色が濃い。ラガー・ビールは透明な黄金色だが、ピターは大体赤っぽい茶色の薄いものから濃いもの、そして黒いものまで様々なバリエーションがある。アルコール度数も三・五度くらいの軽いものから九度近くの強いものまで様々だ。ドイツに行くくと地ビールの多さに驚かされるが、イギリスでもこのピターの種類の多さには正直驚く。色、味、香りともに千差万別なのだ。日本のように全国どこでも三・四の大会社のビールが出てくるのとは大違いで、地域限定のビールが沢山あるのだ。毎年、何種類かのビール・ガイドが出るのだが、その本はとても分厚い。先日そのインデックスをざっと勘定してみた。一頁に約一四〇の名前が出ていて、それが二一頁分あつたから、概算でも二五〇〇から三〇〇〇近くはあることになる。種類の多さ、これもイギリスのビールの特徴だ。またもう一つの特徴は、含まれる炭酸ガスの量が少ないこと。要するに最初から「気が抜けた」状態で出てくることだ。それに温度もキンキンに冷えてはいない。



入り口のタブレット



フリート・ストリートにあるYE OLDE COCK TAVERNの建物

ここが案外ミソだということが飲むと分かる。つまりラガー・ビールはぬるくなつて気が抜けてしまうと不味くて飲めないが、最初から気が抜けていてそれほど冷えて出されるわけではない。ピターは時間が経つてもおしゃべりをするのが普通だ。そう、パブとは先ずビールを飲みながら友達とおしゃべりをするところなのだ。ピターはその間を取り持っているわけだ。だから時間が経つても味が変わらない。ピターが好まれるわけだ。ではいわゆるラガー・ビール



[就職支援センター]  
保立益代 係長

私は、本学卒業生で剣道部OGです。

私には、剣道部の学生に夢を託しているものがあります。自分では叶えられなかった夢…

それは大学日本一になり、剣道をやっている者なら誰でも憧れる日本武道館。その武道館の真ん中で学生とOB・OGが一緒になって円陣を組んで大学の校歌を歌うこと。過去優勝を目前にしながら一歩及ばず日本一を逃している。届きそうで届かない夢。

でも近い将来その日が必ずやってくることを信じ、出来るかぎりのサポートをしていきたい。

たくさんの学生から日々刺激を受け、自分も頑張らなければという気持ちになる。常に学生と接することができる職場に感謝と喜びを感じている。

これからも学生と共に泣き、笑い、時には怒り、一緒に頑張っていきたいと思う。

全国に活躍する剣道部の先輩、後輩がいる。何かあると連絡をとり協力しあえる仲間がいることが、かけがえのない私の財産になっている。

後輩に夢を託して…



[スポーツ健康科学部]  
伊與田康雄 学部長

新設3年目を迎えたスポーツ健康科学部にとって、これからが正念場になるという。

専攻分野は、ラグビーを柱に据えた「コーチ学」。学部運営をラグビーの基本戦略である「前進—継続—展開—突破」にたとえる。この2年間で全国から学生を集めそれなりの評価を得るなど、「前進—継続」に成功した。今年からは「展開」の局面に入ったという。

まずは、就職戦線に向かう3年生をしっかり鍛えたい。地域との連携を図る専門ゼミも実施したい。女性のスポーツ教育の強化にも取り組みたい。たとえば女子サッカーチームをつくれないう。

課題は多いが、若手教員を中心にチームワークがいい。「展開」から「突破」につなげられると確信している。

北海道生まれ。高校でラグビーを始めた。東京教育大学(現、筑波大)でレギュラーに。体力、気力が要求されるフロントフッカーだった。

ラグビーの魅力は、ボールがどう転ぶかわからないこと、小さい選手でもがんばれば大男を倒すことができる。人生しかりである、と思っている。(粟田房穂・記)

今年は「展開の年」に



[法学部]  
宮平真弥 准教授

「入会権の研究、というのは最近では余り流行しない分野ですが」と宮平真弥准教授。苦心の研究を「部落有林野の形成と役割」という本にまとめ、このたび上梓した(北條浩氏との共著)。御茶の水書房刊 定価5000円。

「本作では館三郎(たち・さぶろう)というひじょうに魅力的な人物が登場し、長野県のある村の入会権を巡る争いに加担、これを指導します」

入会権とは村落の境界や、その既得権を示すもので、かつての村と村との争いの要因の多くがここに起因したという。法律や経済、社会学といった広い分野にまたがるものだが、今回の労作では見事にまとめられ、読み応えのあるものになった。

「学術書ですが、反権力をかざした主人公の活躍の物語として、読んでもらえればと思います。ここで部落という言葉を使ったのは、あくまで本来の意味の村落を示すもので、同和とかは関わりません。念のため」

(馬場啓一・記)

意欲作を上梓



[流通情報学部]  
永岡悦子 講師

私は、日本語教育と異文化コミュニケーションの研究をしています。

千葉マリスタジアムの近くで育ちました。

日本語教育との出会いは、高校時代です。カナダにホームステイをしていた時、イラクがクウェートに侵攻し、湾岸戦争が始まりました。その日のホストマザーの言葉が、深く心に残っています。「世界の人々がお互いのことをもっと知り合えたら、戦争なんて起こらないのにね」。日本語を伝え、また自分も外国語を学ぶことで、国際交流に貢献したいと考えました。

主な研究テーマは、日本語学習者のスピーチスタイルの習得です。話し言葉のスタイルは、話し手の人間性を表すと同時に、聞き手の印象形成に影響を与える、コミュニケーション上重要な要素です。日本語学習上の問題点と教育方法を探っています。

今までに東京、長崎、ニュージーランドで日本語を教えてきました。今後も微力ながら、日本と世界の人々をつなぐ橋渡しができれば、と思っています。

日本と世界の人々をつなぐ橋渡しをめざして



[社会学部]  
関哲行 教授

私はスペインの中世と近世の社会史を研究しています。いくつかのテーマがあるのですが、ひとつはサンティアゴ巡礼ですね。当時の巡礼は、慈善(チャリティ)、つまり宿泊施設や食事、医療などと不可分でした。特に前近代世界では、病気は神への冒瀆によるものと考えられたので、治癒のための巡礼だったんです。貧困や病気に苦しむ人を救済する慈善システムについて考えることは、過度の合理主義にいきついた我々日本人の癒しの問題とも関わるテーマだと思います。

あとは、女性労働の歴史、マイノリティや奴隷問題などにも興味があります。1613年にペルーのリマに日本人奴隷がいたという記録が残ってしまっていて、これはぜひ、とりあげてみたいですね。こういった日本史と西洋史、東洋史と、全てにまたがった領域の研究が、これからは必要だと思っています。

プライベートでは、サッカー部の優勝祈願として巡礼をしているんですよ(笑)。

(立川和美・記)

これからは、優勝祈願の巡礼が大切です



[経済学部]  
宮本大 講師

今、私が大学で研究・教育に従事することになろうとは、大学生のころには夢にも思っていませんでした。実際、大学卒業後3年間、企業に勤めていました。しかし、その会社員生活の中で「働くこと」に関する様々な疑問が湧きあがり、また大学時代のゼミの恩師と公私とも深くお付き合いを継続していたことが、この道へ進むことに繋がりました。これからも知的好奇心と人との出会いを大切にしていきたいと思っています。

さて、私の研究についてお話しておきますと、専門は労働経済学で、主に調査によって集めたデータを利用して実証的な研究を行っています。最近では、1990年代以降、「成果主義」というキーワードの下、大幅な改革が進められてきた賃金分配システムを中心とする日本企業の人的資源管理に焦点をあて「その改革の実相」「改革を促した要因」そして「改革のもたらした結果」を明らかにし、企業と従業員双方にとって有益な人的資源管理のありかたを研究しています。

知的好奇心、人との出会い、そして働くこと



# 「馬場啓一のRKUウォッチング」 4

## 源氏物語を楽しむ会

講師：和田律子教授



「源氏物語を楽しむ会」を主催している和田律子教授

【馬場啓一のRKUウォッチング】源氏物語を楽しむ会



その日のテーマにちなんだお菓子も楽しみ

お集まりです」  
たまに土曜日の午後出校すると、この会の看板が掲げられており、一体どのようなことをやっているのだろうと、興味があった。ちなみに和田先生とは法学部で旧知の間柄だ。  
「皆様それぞれ古典としての源氏に、強い興味がお有りですが、それがこうして龍ヶ崎の地元の大学で、それも教室を使っている講座というので、とても喜んでいただいています」  
娘時代に興味があっても、思うに任せなかったという方が多いそう、そこには古い歴史と、一種の格式を誇る、龍ヶ崎という町の上等な土地柄も反映しているという。

月に一回のペースで、土曜日の午後一時半から一号館の153教室で開かれている会がある。講師は法学部の和田律子教授。文学博士の和田先生のご専門は「更級日記」であるが、この「源氏物語を楽しむ会」では、たつぷり光源氏の世界に浸ることが出来る。  
「もう五年くらい続いています。以前に数年間、大学主催や龍流連携の市民講座というカタチで、行っていたのです。その頃は週に一回でした」  
ひじょうに人気のある講座だったらしいが任期満了というこ

とで終わってしまい、それならなんとか自主講座という声が高く、今度は月一回の間隔とし、NPO法人クラブ・ドラゴンズ（本学教職員と市民で立ち上げたNPO）の協力を得て、再スタートすることになった。

「四十歳台から、最高は八十代の方まで、それはもう幅広い年齢の方に集っていただいております。殆ど女性ですが、男性の方でも、熱心な受講者はいらっしゃいますよ。会費はお茶とお菓子の代金として五百円。現在は五十名近くの受講者が、毎月

「源氏の内容は光源氏を中心とした人間模様を中心に、平安時代の衣食住の有様や年中行事の様子、歌舞音曲といった、幅広い知識を持っていないと、うまく理解できません」  
だから有志の方の舞踊を披露したり、物語にちなんだお菓子などを賞味したりするという。なんだか楽しそうである。

「龍ヶ崎市の企画調整課という部署のご協力も得ており、ひじょうに順調です。龍ヶ崎は昔から茶道の盛んな土地ですから、お茶の世界から分け入る源氏の物語というアプローチもあって、盛り上がりがあります」

参加する受講者の方々の慣れ親しんだ世界であるお茶のお手前から、それに必要なお菓子の数々、そして四季折々の年中行事。「源氏物語」を通じてこれらに接し、再現してみる楽しさ。そこには高級で雅びな、王朝文

化の世界がある。素晴らしい講座ではあるまいか。  
「例えば七夕とか、蛸狩り、秋ならお月見と、平安の時代から今日に繋がる行事は実はたくさんあるのです。その意味でこれは、源氏を暮らしの中に活かそうという集まりなんです。皆様それは熱心で、講座の楽しさはそこに尽きると思います」

本学在学学生のご父母やご家族の皆様、卒業生の方々も、気楽に参加されたいかがだろう。

開催場所：流通経済大学  
会費：1回500円  
持ち物：筆記用具  
講師：和田律子（流通経済大学教授）  
お問い合わせ  
Eメール：wada@rku.ac.jp  
TEL：0297-60-1172  
(NPO法人 クラブ・ドラゴンズ)



四季折々の年中行事にちなんだ展示がされることも



OB/OG訪問  
立川が聞く  
4

# 興味があることを突き詰めて いけば、それが「芸」になる

山下博之さん  
(一九九二年 経済学部経営学科卒業)

今回は、一九九二年に経済学部経営学科を卒業になった山下博之さんに、ご自身が代表取締役社長を務めるキノエネ醤油株式会社の本社でお話を伺いました。

取材：立川和美(社会学部准教授)

## ― 本学に入学されたきっかけは？

私は流通経済大学付属柏高等学校出身で、内部進学したんです。流通経済大学付属柏高等学校が、自宅からとても近かったものですから。当時はまだ経済学部しかなかったもので、将来家業を継ぐことを考えて、経営学科を選びました。

## ― 大学時代はどのように過ごされたのですか？

「勉強勉強」という感じではなかった

よ」と誘われれば、「はい、喜んで」と誘われるがままご相伴に与ることが多いですね。その中で、いろいろと有益な話を伺って、勉強していくわけなんです。また、そのようなお話を伺いしていると、結構その人たちに可愛がっていただけけるんですよ。社会に出て、即戦力となるような力をつけたり、人との関わりを通して自分を磨いたりする基礎は、やはり大学生活の中で養っておくべきものだと思います。

## ― 現在、お若くして、社長という重職に就かれているわけですが、ご自身のお仕事について、どのようにお考えですか？

私は大学を卒業してすぐにこの会社に勤め、最初の一年間は品質管理、次の一年間は物流、そして一年間営業に行っています。その後すぐに物流部の副部長になったんです。今、社長になってまだ二年経っていませんが、ともかく今の自分の仕事は「決めること」、そして「やること」だと思っています。「決める」といってもいろいろ方向があります。過剰な設備投資もいけません、かといって何もやらなかったら、会社は動かない。下から「やりたい」という声があったら、それは本当に会社にとって効果的なのかを考えて決めなくてはなりません。そういう決断には、多面的で正しい判断が迫られます。ですから、うちの会社の役員会は、合議制なんです。一人でも反対の意見が

ですね。当時は、学生の半数くらいが付属高校からの進学組で、そういう友達といろいろと遊びました。長期休暇の時だけでしたが、アルバイトもしましたよ。ファミリーレストランですとか、あとは、スキートのロッジに泊り込んだり、夏はプールの監視員もやりました。

大学時代に学んだことで、社会に出てすぐに使えたのは会計学が一番役に立っているんじゃないでしょうか。基礎が分

あがれば、それはペンディングにして、次回の会議までにもう一度、どうしたらよりよくなるかを考えます。私が社長になってからは、以前と比べて「どんどん決めていく」という方向が変わってきています。これも、よい部分と難しい部分とがあることと自覚しています。妥協して決めることもあり、確信を持って決めることもあり、どちらも決断力が必要な仕事です。

## ― 毎日のお仕事はどのようなのですか？

定時が八時ですから、もちろん八時前には出社していますよ。五時過ぎまで社にいて、その後は、青年会議所の副理事長を務めている関係で、その活動があることも多いですね。

## ― お忙しいんですね。

忙しいっていう言葉が嫌いなんです。「心」を「亡くす」って書くでしょ？心を失っているということですよ。本当にやる気のある人は「忙しい」とは言わないものです。でも、私も忙しいって言いますよ。その時は、完全に自分を見失っているって反省するんですよ。

## ― プライベートはどのようにお過ごしですか？

なかなか家に居られないのが悩みですね。娘が二人、息子が一人いるのですが、今は、あまり一緒に遊べないんです。実は夏休みも仕事で、大豆の視察のためにシカゴに出かけなければいけないんです

かっていたら、帳簿は分かれますから。もちろんマクロやミクロの経済学も勉強したのですが、当時はその実態をつかみ切れませんでした。実感を持ってくるのは、やはり社会に出てからです。今は、卒業してからのほうが、本当に勉強していますよ。(笑)

ただこうした「遊び」も、社会に出てからはよかつたと思える部分も多いんです。「芸は身を助く」というのを社会に

よ。普段の休みの日には、会議が入ることが多いですし。家族には、本当に申し訳ない状態ですね。

## ― 最後に流経大生にひとことお願いいたします。

いわゆる「勉強ができる」ということも、確かに一つの力ですが、社会では、絶対にそれだけではないんです。大学で学んだことが、全てそのまま社会で使えるわけではない。二つ、三つと応用して初めて、通用するようになるんです。まずは、身だしなみと礼節を持って人と会話ができ、「素直に聴ける」「自分が言いたいことをちゃんと伝えられる」という力さえあれば、あとは実践ではないでしょうか。

それから、よく、「私、それはできませんから」と、何事に対しても逃げてしまう人がいますが、それではだめです。何でもいいですから、自分が興味を持っていること、それを突き詰めて進んでいってほしいと思います。社会人となったときに、それがその人の「芸」となり、それこそがその人の「人間性」をつくっていくものとなるからです。例えば、ゴルフができれば、大切なお客様と一緒にプレイするだけで、五時間近くいろいろと話ができるわけです。こんなに長時間、話をするなんていうことは、普通はできませんよね。先にも述べましたが、「芸は身を助く」という言葉を実践的に考え

出てから実感しました。私もまだまだ若い世代だと思っていますが、もっと若い世代は、「お酒が飲めない」「人と話せない」「他の人に合わせられない」という自分中心の人が多いようですよ。こういうことは友達づきあいを通して学んでいくことではないでしょうか。現在、私が接する人というのは、一番上は八〇歳台です、他も、五〇、六〇歳台の方々がほとんどです。ですから、「飲みに行こう

ると、ゴルフだって仕事の中で生かせる」「芸」になりますよね。英語が話せる、中国語が話せる、パソコンがうまい、更に言えば、自分が好きな野球の話でもいいんです、そういう「芸」をどこまで大学時代に身につけられるかじゃないでしょうか。こういう「芸」が「あいつ面白いな」と思われるきっかけになるんです。社会では、必ずそういう「面白さ」を評価してくれる先輩がいます。やっぱり「かわいいやつはかわいい」んです。ともかく人間性を豊かにしていってほしいですね。

創業178年を迎えるキノエネ醤油の本社の、歴史と趣のある一室でお話を伺いました。山下さんは、ユーモアのある明るいお人柄の一方、経営に対する情熱のあふれる方でいらっしゃいます。若手の社員の方にも親しみをこめて声をかけられ、とても温かな社風が感じられました。



ホームページ開設などで会の活性化を推進

来年、発足40周年の節目を控える本学校友会では、会の活性化を推進いたしております。  
 まず、5月には広報活動および会員相互の情報交換の場として、ホームページを作成いたしました（詳細は、下記をご参照ください）。こまめな更新を心がけてまいりますので、校友会員に限らず、本誌「RKU Today」読者の皆様にもアクセスいただければ幸いです。  
 なお、活動目標として、運営効率化のための諸規定を制定するとともに、本部幹事会の定例開催（年4回）、会員住所録の精査を行います。また、既存支部の活性化と新支部発足を進めるとともに、新会員向けにはパンフレットを作成し、卒業時に配布できるように準備を進めます。  
 そのほかにも、少子化に伴う全入学時代を控え、母校、流通経済大学にとっても今後は新入生の確保が極めて重要となりますので、校友会としても新入生確保に向けた取り組みを支援してまいります。



流通経済大学ホームページ

流通経済大学校友会ホームページへのアクセス方法

流通経済大学のホームページ <http://www.rku.ac.jp/> または、  
 直接 <http://rku-koyu.org/> からご覧いただけます。  
 あるいは、Yahoo!やgoogleなどの検索サイトで  
 「流通経済大学校友会」と入力しても検索できます。



流通経済大学校友会ホームページ



「写真で見る流通経済大学」

「シリーズ：思い出の恩師」



留学生紹介

「ただ、まっすぐに将来を見据えて…」

流通情報学部 / 流通情報学科 / 3年

駱 忠良 ラク チュウリョウ(中国)

今回の留学生紹介は、中国（上海）出身のラク君です。  
 最初は緊張していましたが、だんだん会話が弾み、素敵な笑顔を見せてくれました。  
 取材：沖野雅広（企画広報室）

ラクさんは中国出身のことですが、当時はどんな勉強をしていたのですか？

私は、生物薬の研究を中心に薬剤の勉強をしています。

日本に来たキッカケは何だったのでしょうか？

父親の強い推薦があったからです。私は、中国の大学では理系を学んでいました。でも父から、視野を広げるために文系の勉強もしたほうが良い、と勧められました。留学先を日本に決めたのは、日本が経済の面で中国と密接な関係を築いていたからです。

本学では、何を専攻していますか？

私が薬剤の勉強をしていた頃、中国には薬が有効期限内に届かない地域がありました。その時、どうすれば効率よく薬を届けられるのだろうと考えたのがキッカケで、流通という分野に興味をもち、勉強に取り組んでいます。

日本での生活は？

来日して半年の間は、日本語がわからなくて、本当に苦労しました。夏休みには、一度国に帰ったのですが、両親に励まされ、また頑張ろうと決心しました。

現在では来日して五年が経過しましたが、その間下ナツ屋さんでアルバイトをしています。現在では、店頭での販売だけではなく、商品の発注（管理）も任せてもらえるようになり、流通を実戦の場で学ぶこともでき、たくさん仲間もできました。仲間と遊ぶ中で、日本の文化にも触れることができ、よいリフレッシュにもなっています。

日本の文化についてはどうですか？

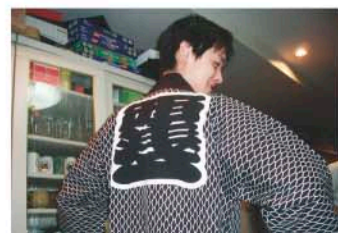
日本の「祭り」がとても好きです。来日当時は浅草に住んでいたのですが、さまざまな祭りに参加しました。特に、神輿を担いでいるときは、日本の熱気を肌で感じることができました。目標は浅草の三社祭で神輿を担ぐことです。

大学について、望むことはありますか？

大学で紹介してもらい参加した「留学生・奨学生地域交流会」では、他大学の人も知り合うことができ、一緒に沖縄に旅行に行くほど仲良くなりました。さまざまな国の人たちが参加したので、文化についても話し合うことができ、とても勉強になりました。こういった機会をもっと学内に増やしてほしいと思っています。

卒業後の進路は？

中国で薬剤について学んでいた時は、専門の知識を追求していくことが大事だと思っていました。でも、留学し学んでいく中で、得た知識を活かさないことは、学んでいないのと同じだと思ってしまうようになりました。そこで、初心に戻り考えた結果、通関士という仕事に就きたいと考え、今後も目標に向かって頑張っていこうと思っています。



## オープンキャンパス



6月21日(土)龍ヶ崎キャンパス、28日(土)には新松戸キャンパスにて、オープンキャンパス(以下:O.C)が開催されました。O.Cでは、全体説明会から始まり、模擬授業、キャンパスツアー、入試説明会と続きました。

O.Cは、今後も行っていきますので、興味をお持ちの方は、ぜひご参加ください。本誌の裏表紙に今後の開催予定を掲載しています。



## 青春祭(新松戸キャンパス学園祭)

6月14・15日 新松戸キャンパスにおいて「青春祭」がおこなわれました。龍ヶ崎キャンパスの「つくばね祭」と並び、学生主催での最大のイベントです。両日とも盛況のうちに終わり、たくさんの方が来場されました。



## 海浜実習



スポーツ健康科学部の学生が、2班に分かれて、沖縄にある渡嘉敷島にて海浜実習を行いました。

1班は6月24~27日、2班は27~30日。ハードなスケジュールでしたが、戻ってきた学生の顔には実習の充実と、一回り成長した姿が見てとれました。

※写真は昨年度の実習の様子。

## 四川大地震の募金活動

中国四川省で5月12日に発生した地震に伴い、募金活動を開始しました。これは、地震発生後、留学生が窓口に出たことがきっかけで始まり、たくさんの方にご協力いただきました。※現在は、募金活動を停止しています。



## 田山寛豪選手(トライアスロン)が北京オリンピック出場!

トライアスロンの田山寛豪選手(社会学部OB)が、流通経済大学の所属として北京オリンピックに出場することが決定しました。2004年のアテネに続いて、2大会連続のオリンピック出場となります。

6月に行われた記者発表会では「あと2カ月、一生懸命練習をして、メダルを取りたいと思います」と意気込みを語りました。



写真提供: (社)日本トライアスロン協会

### 田山寛豪 たやまひろかず

1981年11月12日生まれ。流通経済大学社会学部社会学科2003年度卒業。2008年5月より本学職員となる。2006年の第12回日本トライアスロン選手権優勝や、2007年のITUトライアスロン・ワールドカップエイラート大会優勝(日本人初)など、数々の戦歴を誇る。

## アカシア植樹式



5月17日(土)、流通経済大学は、かねてから交流のある中国大連市人民政府研究発展センター(以下:センター)から、アカシアが寄贈され、植樹式が行われました。

植樹式には、センターから胡志民氏や、龍ヶ崎市から串田市長をはじめ幹部数名を招待し、盛大に行われました。



固い握手を交わす中国大連市人民政府研究発展センターの胡志民最高顧問(左)と本学の佐伯弘治学園長(右)

## [編集後記]

●原油の高騰がガソリン等石油製品の大幅な値上がりにつながっている。さらにトウモロコシ等を原料とする石油の代替燃料として注目を浴びているバイオエタノールがトウモロコシの高騰をもたらし、トウモロコシを主食とする国々の食生活に大きな影響をあたえ、暴動が起きている国も出てきているらしい。

原油を原料とする製品は、かなりの件数に及ぶので世界中の国々が値上げラッシュにこれといった対策を立てることができないまま原油価格の沈静化、値下がりを待っている状況であるようだ。

また、米国で発生したサブプライムローン問題が原因で、新たな投資先を求めた余剰資金が投資先を原油にかえて現在に至っているというのが背景としてあげられている。

世界的な余剰資金の投資先がない限りまだこの状況が続くのであろうか。先行きまったく不透明といったところである。

●このような中わが国の経済はやや安定しているとはいえ、この先は不透明といったところであるが、企業の求人活動は活発である。その背景としては、団塊の世代の定年退職があげられると思う。4年の学生は、すでに就職活動に入っているが、希望の職種、企業等に就職できるように願わずにはいられない。

●さて、本誌が本学の情報を内外に発信する季刊誌として昨年10月に1号(秋号)、本年1月に2号(冬号)、4月に3号(春号)、そして今回4号(夏号)を発刊することができた。1号の特集は、「スポーツ健康センター」、2号が「新松戸キャンパス」、3号が「図書館」、そして今号の特集はさらなる充実が図られる「社会学部」の紹介である。

本誌編集スタッフ一同、今後も読者の皆様のご意見を尊重し、充実した内容に創り上げて行く所存である。ご意見、ご要望等ありましたら企画広報室にお寄せ願います。(編集者)

# RKU Schedule 2008年7月～9月

## [全学]

7/5	父母懇談会【龍ヶ崎】
7/12	父母懇談会【新松戸】
7/18～31	春学期定期試験【龍ヶ崎・新松戸】
8/1～9/20	夏季休業期間
9/22	秋学期授業開始
9/27	春学期卒業式



## 2008年 オープンキャンパス日程

龍ヶ崎キャンパス (茨城県龍ヶ崎市平畑120)

7/19(土) 8/2(土) 9/6(土) 10/11(土)

新松戸キャンパス (千葉県松戸市新松戸3-2-1)

7/26(土) 8/23(土) 9/20(土) 10/18(土)

10:30 受付開始 11:00～15:00

メニュー：個別相談、AOエントリー、フリートーク、学食体験、キャンパスツアーなど

※事前のお申し込みは必要ありません。お気軽にご参加ください。

お問い合わせ：TEL 0297-60-1156 (入試センター直通)

# RKU

流通経済大学広報誌 **RKU Today** vol.4

2008年7月発行

編集・発行 学校法人日通学園 流通経済大学企画広報室

茨城県龍ヶ崎市平畑120 〒301-8555

TEL: 0297-64-0001(代表)

